

退職者連絡会

第55号
(発行・編集)
J R九州労組
退職者連絡会
鹿児島地区本部

衆院選「野間たけし」氏当選 草の根活動で、前回の雪辱を晴らす

第四九回衆院選は、十月三十一日に投開票が行われ、県連合、J R九州労組推薦の「野間たけし」候補（鹿児島3区）が、年中無休で続けた草の根活動で、前回の雪辱を晴らし、4年ぶりに国政への返り咲きを果たしました。

しかし、戦後初となる与野党一騎打ちの「川内ひろし」候補（鹿児島1区）は、小選挙区七期目を目指しましたが、惜しくも破れました。

宮崎県の1区では、立憲新人の渡辺創候補が、自民前職との競り合いを制し、初当選を果たし、自民が県内で独占してきた議席を十二年ぶりに奪還しました。

延岡市など2区の国民新人の長友真治候補は、自民七期目二世に惜しくも敗れたものの、比例復活当選を果たしました。



今回の選挙戦は、「政治とカネ」問題や、新型コロナウイルス感染症対策をめぐって説明責任に背を向けた安倍・菅両政権への政治不信等に対する国民の審判が注

目されましたが、結果は政権交代にはほど遠く、自民単独多数を許す結果となりました。また、全国的には、投票率も戦後三番目に低い、五〇%台と低調に終わり、政治への無心感が露呈しました。今後、緊張感ある与野党伯仲の政治が求められています。

今回の選挙戦は、

「政治とカネ」問題や、新型コロナウイルス感染症対策をめぐって説明責任に背を向けた安倍・菅両政権への政治不信等に対する国民の審判が注

て、大阪を中心とした維新の大躍進により、国民民主党が、野党共闘から離脱、維新との共闘が報道されているところで、全国の小選挙区においては、野党共闘の成果がいかなく発揮され、自民の大物政治家を立憲新人が破る成果も挙げられています。

今後の課題としては、連合指導による推薦候補の一本化と、野党共闘のさらなる発展が、与野党伯仲を生み出すカギになると思えます。今日までの会員のご支援・ご協力に心から感謝申し上げます。

ありがとうございます。

第15回定期総会を開催 福祉増進と会員相互の親睦や 会員拡大など活動方針を決定

十一月八日、J R九州労組退職者連絡会第十五回定期総会が、福岡市で開催されました。

隔年（二年）総会には、役員、来賓ら四〇名が出席の下、議長に吉永徹男氏（熊本）を選出。議事に入り冒頭、安井俊幸会長が挨拶「発足十八年を迎え、組織も二千名強となりました。こ

の間、コロナ禍でレクリエーションや、会議等の制約を余儀なくされた二年間で、組織拡大も嘱託再雇用制度により会員拡大も厳しいものがあります。現退一致して取り組みを強化しよう」と述べられました。引き続き、高野富夫会長（J R連合退職者連絡会）、芦原秀己委員

長（J R九州労組）、田頭正憲本部長（交通共済九州事業本部）から現状と課題等について連帯と激励の挨拶がありました。

その後、2020年度経過及び19・2021年度活動方針案及び予算案が提起され、若干の質疑応答があり、満場一致で採択されました。

役員選出では、安井俊幸会長が勇退、新会長に高田義廣氏が選出されました。

新会長の音頭で団結ガンバローを三唱し閉会となりました。

【新役員】

- 会長 高田義廣(福岡)
- 副会長 坂本和哉(熊本)
- 事務局長 木村智隆(本部)
- 幹事 弓場政則(福岡)
- 幹事 赤瀬和彦(長崎)
- 幹事 玉井成之(大分)
- 幹事 吉永徹男(熊本)
- 幹事 堅山正明(鹿児島)